

§2 スカウト運動の基本原則

【目標】

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. スカウト運動の「定義」「目的」「原理」「方法」について理解する。
2. 「ちかい」と「おきて」について理解する。

【指導上のねらい】

1. スカウト運動の「定義」「目的」「原理」「方法」とそれぞれの関わりを理解させる。
2. スカウト運動への直接的な訓育・教育は隊指導者の役割であり、団指導者は主に隊指導者への支援・援助という役割を持って、スカウトの成長に貢献することを理解させる。
3. 日本におけるスカウト運動も世界スカウト機構（WOSM）によるスカウト運動の「定義」「目的」「原理」「方法」に則って展開されていることを理解させる。
4. 行動規範である「おきて」を守り実践することが「ちかい」の実行につながることを理解させる。
5. 「おきて」の実践が活動の活性化につながることを理解させる。

【セッションの概要と展望】

- (1) スカウト運動の定義を確認する。
- (2) スカウト運動の目的を確認する。
- (3) スカウト運動の原理を確認する。
- (4) スカウト運動の方法を確認する。
- (5) 日本連盟が制定する「目的と基本方針」も基本原則に基づいていることを確認する。

【展開】

1. スカウトソング「I've got that B-P spirit」

(1) まず、この歌を歌おう（pptで投影）

- ①この歌は「私は、B-Pの精神を身に付けました」という歌。
「私の頭の中にも」「私の心の中にも」「私の足元にも」「私の体中に」
では、B-Pのスピリッツとは何でしょうか。
→それには、このボーイの基本原作を知らなければなりません。

2. 展開

(1) テストをします。

- ①まずは、言葉で説明するよりも、動機付けとして、基本原則を（良く）知らないということを、意識させます。

(2) テストの答え合わせ

- ①スカウト運動の創始と発展について概略を説明し、どのようにして成人指導者の援助が始まり組織化され、教育のための規則が整備されていったかについて触れる。
→イギリス方式とアメリカ方式の違い
→
②スカウト運動の「定義」「目的」「原理」「方法」と日本連盟の定める「目的と基本方針」の関連も説明する。

担当：

第1日 11:00～12:00（60分）

●準備品（資材・資料）

- ・基本原則
- ・日本連盟規程集
- ・書籍「団の運営と団委員会」
- ・テスト用紙

●BSA歌集では

I've got that Scouting spirit
Up in my head

Deep in my heart

Down in my feet

All over me

基本原則		教育規定
「定義」	スカウト運動は「創始者によって考案された（中略）、性別、出生、人種、信条による区別なく誰をも対象とした、青少年のための自発的で非政治的な教育的運動」である。	ボーイスカウトの組織を通じ、(1-3) 本連盟の組織は、平等の原則に従い、すべての人に開放される。(1-5)
「目的」	青少年が個人として、責任ある市民として、地域、国、国際社会の一員として自らの肉体的、知的、情緒的、社会的、精神的可能性を十分に達成できるように青少年の発達に貢献すること	自らの健康を築き、社会に奉仕できる能力と人生に役立つ技能を体得し、かつ、誠実、勇気、自信及び国際愛と人道主義を把握し、実践できるよう教育すること(1-3)
「原理」	スカウト運動全ての加盟員を特徴づける行動規範を表したもの。スカウト運動では、「神へのつとめ」「他へのつとめ」「自分へのつとめ」に基礎が置かれ、スカウト運動の基本的な信念を表している。	「ちかい」と「おきて」の実践を基盤とし(1-4)
「方法」	目標を達成する際に用いられる手段であり、スカウト教育法と呼ばれるいくつかの教育手段によって構成されている	ベーデン・パウエルが提唱する班制教育と、各種の進歩制度と野外活動を、幼年期より青年期にわたる各年齢層に適應するようにビーバースカウト、カブスカウト、ボーイスカウト、ベンチャースカウト及びローバースカウトに区分し、成人指導者の協力によってそれぞれに即し、かつ、一貫したプログラムに基づいて教育することを基本方針とする。(1-4)

教育規定 (P.32)

教育の目的 1-3

本連盟は、ボーイスカウトの組織を通じ、青少年がその自発活動により、自らの健康を築き、社会に奉仕できる能力と人生に役立つ技能を体得し、かつ、誠実、勇気、自信及び国際愛と人道主義を把握し、実践できるよう教育することをもって教育の目的とする。

基本方針 1-4

ボーイスカウト運動（以下「本運動」という。）は、「ちかい」と「おきて」の実践を基盤とし、ベーデン・パウエルの提唱する班制教育と、各種の進歩制度と野外活動を、幼年期より青年期にわたる各年齢層に適應するようにビーバースカウト、カブスカウト、ボーイスカウト、ベンチャースカウト及びローバースカウトに区分し、成人指導者の協力によってそれぞれに即し、かつ、一貫したプログラムに基づいて教育することを基本方針とする。

- ④ 「ちかい」と「おきて」は、原理に基づいて表現し、定められている。
- ⑤ 「おきて」は、自らの生活行動を律する行動規範である。
- ⑥ 「おきて」の実践が「ちかい」の実行につながることを伝える。
 - ちかいの1つめに「おきてを守ります」まずはおきてありき。
 - 8つの「おきて」が言えるか？ 副文が言えるか？
 - 主文と副文でセット。

3. まとめ

- (1) スカウト運動は、青少年が個人として、社会の一員として身体的・知的・情緒的・社会的・精神的資質を十分発達させるよう援助し、貢献することを目的としている。
- (2) 各国（または地域）連盟は、基本原則を受容して活動の基盤としている。ゆえにスカウト運動は、世界中で同じ目的達成に向けて活動を展開している。
- (3) 隊指導者、団指導者はスカウト運動の「基本原則」及び日本連盟の「目的と基本方針」をよく理解し、これを受容した上で、純正な団の発展を図り、青少年の成長に寄与できるよう努力をお願いしたい。
- (4) さて、「I've got that B-P spirit」の歌である「B-Pスピリッツ」とはB-Pの示す「スカウト精神」である。
 - ①スカウティングは、まず第一に「自ら実行すること」→実践躬行。
「実行した結果を評価反省して更なるステップを目指す。教理を窮めること」→精究教理。
「これを何度もくり返して自分の中にスカウティング・スピリッツを育てて行く」→道心堅固
※「清規三事」しんぎさんじ
 - ②「道心門」
「道の心」とは、例えば剣道、柔道、茶道、華道の中にも「道の心」が存在する。
例えば、初めに手足を使って実践するのが「剣術」であり頭を使って評価反省、教理を窮めて「剣法」となり

自分の心の中に永遠に滅びることのない心境をひらく段階が「剣道」ということになるのでしよう。

この三段階の中に「術」「法」「道」がある。

スカウト精神は「スカウト道」といえるかもしれない。

→「この道を行く」のppt

※「この道を行く」の「この道」は「スカウト道」であり、スカウト精神です。ゆっくりかみしめて歌いましょう。

スカウトの「ちかい」 1-11

①スカウトの「ちかい」は、次のとおりとする。

私は名誉にかけて次の三条の実行をちかいます

一、神（仏）と国とに誠を尽くしおきてを守ります

一、いつも他の人々をたすけます

一、からだを強くし心をすこやかに徳を養います

②ボーイスカウトは、入隊に際してスカウトの「ちかい」をたてる。

③ベンチャースカウト及びローバースカウトは、入隊又は上進に際してスカウトの「ちかい」をたてるか、これを再認する。

④はじめて指導者になるときには、スカウトの「ちかい」をたてるか、これを再認する。

⑤前項に定める者のほか、本運動に関与するすべての者は、スカウトの「ちかい」をたてることが望ましい。

スカウトの「おきて」 1-14

スカウトの「おきて」は、次のとおりとする。

1 スカウトは誠実である

スカウトは、信頼される人になります。

真心をこめて、自分のつとめを果たし、名誉を保つ努力をします。

2 スカウトは友情にあつい

スカウトは、きょうだいとして仲よく助け合います。

すべての人を友とし、相手の立場や、考え方を尊重し、思いやりのある人になります。

3 スカウトは礼儀正しい

スカウトは、規律正しい生活をし、目上の人を敬います。

言葉づかひや服装に気をつけ、行いを正しくします。

4 スカウトは親切である

スカウトは、すべての人の力になります。

幼いもの、お年寄り、体の不自由な人をいたわり、動植物にもやさしくします。

5 スカウトは快活である

スカウトは、明るく、朗らかに、いつも笑顔でいます。

不平不満を言わず、元気よく、進んでものごとを行います。

6 スカウトは質素である

スカウトは、物や時間を大切にします。

むだをはぶき、ぜいたくをせず、役立つものは活用します。

7 スカウトは勇敢である。

スカウトは、勇気をもって、正しく行動します。

どんな困難なことがあってもくじけずに、新しい道をきり開きます。

8 スカウトは感謝の心をもつ

スカウトは、信仰をあつくし、自然と社会の恵みに感謝します。

お礼の心で、自然をいつくしみ、社会に奉仕します。

ビーバースカウトの「やくそく」 1-12

①ビーバースカウトの「やくそく」は、次のとおりとする。

ぼく（わたくし）は

みんなとなかよくします

ビーバー隊のきまりをまもります

②ビーバースカウトは、入隊に際してビーバースカウトの「やくそく」をする。

カブスカウトの「やくそく」 1-13

①カブスカウトの「やくそく」は、次のとおりとする。

ぼく（わたくし）は

まじめにしっかりやります

カブ隊のさだめを守ります

②カブスカウトは、入隊に際してカブスカウトの「やくそく」をする。

ビーバー隊の「きまり」 1-15

ビーバー隊の「きまり」は、次のとおりとする。

1 ビーバースカウトはげんきにあそびます

2 ビーバースカウトはものをたいせつにします

3 ビーバースカウトはよいことをします

カブ隊の「さだめ」 1-16

カブ隊の「さだめ」は、次のとおりとする。

1 カブスカウトはすなおであります

2 カブスカウトは自分のことを自分でします

3 カブスカウトはたかひに助けあいます

4 カブスカウトはおさないものをいたわります

5 カブスカウトはすすんでよいことをします

「モットー」 1-17

スカウトの「モットー」は、次のとおりとする。

そなえよつねに（備えよ常に）

ビーバースカウトの「モットー」 1-18

ビーバースカウトの「モットー」は、次のとおりとする。

なかよし

カブスカウトの「モットー」 1-19

カブスカウトの「モットー」は、次のとおりとする。

いつも元気

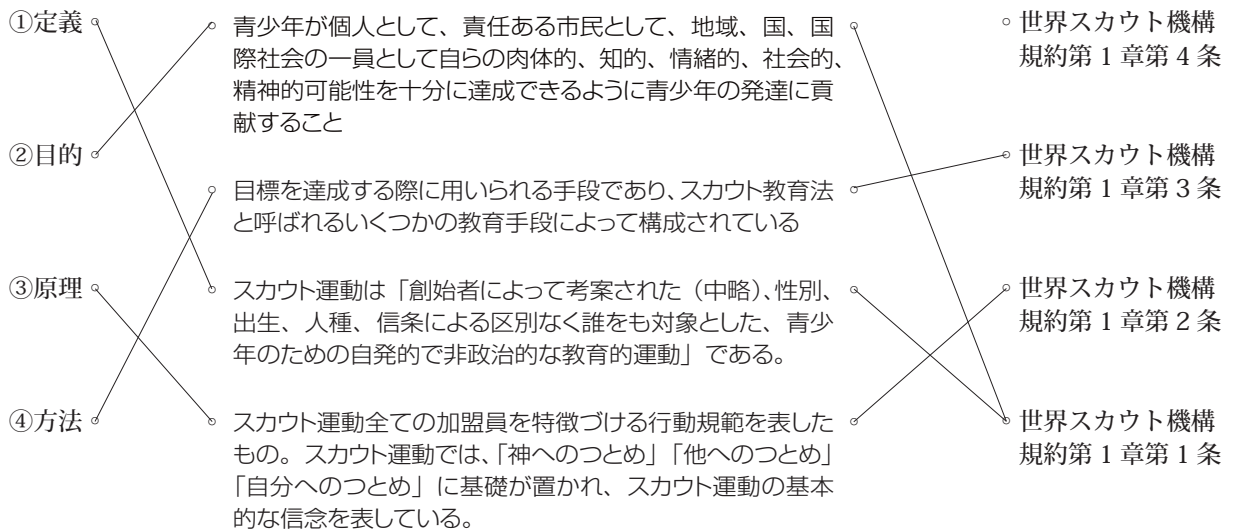
「スローガン」 1-20

「スローガン」は、次のとおりとする。

日日の善行

§ 2 「スカウト運動の基本原則」

問題1 次のスカウト運動の基本原則の4つとその「解説」、「根拠条文」の関連するものをそれぞれ線で結びなさい。(重複もあります)



問題2 「ちかい」、「モットー」、「スローガン」を記述してください。また に言葉を埋めなさい。

スカウトの「ちかい」

私は にかけて次の三条の をちかいます

一、 神(仏)と国とに誠を尽くしおきてを守ります。

一、 いつも他の人々をたすけます。

一、 体を強くし心をすこやかに徳を養います

スカウトの「モットー」

そなえよつねに (備えよつねに)

カブスカウトの「モットー」

いつも元気

ビーバースカウトの「モットー」

なかよし

「スローガン」

日日の善行

問題3 スカウトの「ちかい」について主文の に適切な言葉を埋め、その副文を下の㉗～㉚から選び () に記入しなさい。

スカウトの「おきて」

1 スカウトは	誠実である	(㉗)
2 スカウトは	友情に厚い	(㉘)
3 スカウトは	礼儀正しい	(㉙)
4 スカウトは	親切である	(㉚)
5 スカウトは	快活である	(㉛)
6 スカウトは	質素である	(㉜)
7 スカウトは	勇敢である	(㉝)
8 スカウトは	感謝の心を持つ	(㉞)

- ㉗ スカウトは、勇気をもって、正しく行動します。
どんな困難なことがあってもくじけずに、新しい道をきり開きます。
- ㉘ スカウトは、すべての人の力になります。
幼いもの、お年寄り、体の不自由な人をいたわり、動植物にもやさしくします。
- ㉙ スカウトは、信頼される人になります。
真心をこめて、自分のつとめを果たし、名誉を保つ努力をします。
- ㉚ スカウトは、明るく、朗らかに、いつも笑顔でいます。
不平不満を言わず、元気よく、進んでものごとを行います。
- ㉛ スカウトは、きょうだいとして仲よく助け合います。
すべての人を友とし、相手の立場や、考え方を尊重し、思いやりのある人になります。
- ㉜ スカウトは、信仰をあつくし、自然と社会の恵みに感謝します。
お礼の心で、自然をいつくしみ、社会に奉仕します。
- ㉝ スカウトは、物や時間を大切にします。
むだをはぶき、ぜいたくをせず、役立つものは活用します。
- ㉞ スカウトは、規律正しい生活をし、目上の人を敬います。
言葉づかいや服装に気をつけ、行いを正しくします。